

『ハイビスカス・ワンダー・ランド』 脚本：金久保知貴

＜STORY＞

新内真夏は極悪非道の振り込め詐欺師。今日もいつものようにご老人宅に電話を掛けていた。そこへたまたま通りかかった振り込め詐欺撲滅に燃える刑事「下仁田」。真夏は下仁田に捕まることなく、無事に大金を手にすることは出来るのか？！ が！ 早速悲報！ 「刑事がワタシ（詐欺師）に恋をする？！」

＜登場人物＞

新内真夏	詐欺師
下仁田真一	刑事
下仁田小枝子	おばあちゃん
明菜	真夏の仲間
カワカミ	刑事
女性（声のみ）	被害者
警察官（男3人）	警察官

〔男5 女4 計9人 25分〕〔男2 女7 計9人も可能〕

道路。

真夏が公衆電話から電話をかけている。

真夏

もしもし？ 私、私。花音！ うん、元気？ え、私は元気だよ。まあ、多少風邪気味ではあるけど。ううん、大丈夫。それよりね、おばあちゃん！ 私大学受かったんだよ！ほんと！ありがとう！ ・ ・ ・それでね、おばあちゃん。入学金に三百万必要なの ・ ・ ・ うん ・ ・ ・ うん。おばあちゃん、お金貸してくれない？（動きが止まる）

振り込め詐欺撲滅運動刑事（デカ） 下仁田がやってくる。携帯電話を取り出す。

下仁田

下仁田だ。着いたぞ、青羽（あおばね） 中央公園！ 被疑者は二十代ぐらいの若い女。詐欺師の受け子はここで目撃されている。現在、別件でも捜査中。（動きが止まる）

真夏

私、どうしても大学に入りたいの！ ・ ・ ・ うん。うん。 ・ ・ ・ だからね、おばあちゃんお願い！ 私ちゃんと頑張るから。

下仁田

そのくらい分かっている。ああ、それと。少し、寄りたいところがあるんだ。え？ まあ ・ ・ ・ ほんと！？ ほんとに貸してくれるの？ おばあちゃん、ありがとう！

下仁田

最近顔出していないからな。久しぶりに実家に帰る。うん ・ ・ ・ 分かった。おばあちゃん！ ありがとう。

真夏

下仁田

え？ そんなの決まってるだろう？

真夏

それじゃあ．．

下仁田

（同時に）今から行くよ。

真夏

（同時に）今から行く！

真夏が受話器を置き、歩き始める。下仁田も携帯電話をしまい歩き始める。
やがて二人はぶつかる。二人は倒れる。その時、真夏のカバンから入学書類が飛び出す。
真夏は走り去ろうとするが、下仁田が止める。下仁田は入学書類を拾い真夏へ差し出す。

下仁田

君！

真夏

（振り向いて、小声で）ありがとうございます。

真夏が走り去る。

下仁田は、真夏の後ろ姿を見届ける。

その瞬間、走馬灯のように時間が巻き戻される。

下仁田家の前。真夏がインターホンを鳴らす。
チャイムの音。

扉から、下仁田小枝子が飛び出す。

真夏

おばあちゃん！

小枝子

ああ、花音ちゃんかい。

真夏

うん。

小枝子

元気だったかい？

真夏

おばあちゃんこそ。

小枝子

ああ、この通りだ。

真夏

私、大学受かったんだ。

小枝子

おめでとう。話を聞いて嬉しくて嬉しくて。

真夏

それで、お金は？

小枝子

これだよ。あ、そんなことより中へ入って。

真夏

ごめんね、おばあちゃん。このあとすぐに振り込みにいかないと。

小枝子

そうかそうだね。

下仁田がやってくる。

下仁田

君は！（さっきの・・・）

真夏

（振り返って）あ、さっきの。

小枝子

真一！ 花音ちゃん大学受かったよ。

真夏

ちよっと、おばあちゃん。

下仁田

花音ちゃんだったのか。しばらく見ない間に大きくなったな。そうか・・・おめでとう。

真夏

う、うん！

小枝子

（真夏に）はい、入学金。

真夏

ありがとう、おばあちゃん。

下仁田

なんだそれ。

真夏

入学金足りなくて。

下仁田

全く兄貴の野郎は。

小枝子

真一！

真夏

それじゃ、私行くね。

小枝子

気を付けるんだよ。

真夏が去る。その前に下仁田が真夏を呼び止める。

下仁田

あ、花音ちゃん！

真夏

（振り向いて）

下仁田

達也に・・・お父さんに伝えてくれないか。俺は立派に刑事になったって。

真夏

刑事？

下仁田

今は生活安全課の振り込め詐欺の対策部署にいる。兄貴はちゃんと仕事してる、って、そう伝えてくれ。

真夏

わ、分かった。

下仁田

花音ちゃん。・改めて、合格おめでとう。

真夏

うん！

真夏、逃げるように走り出す。

振り込め詐欺師グループのアジト。

明菜がいる。

真夏がやってくる。

真夏

まさかアイツが刑事だったなんて。しかも！ 生活安全課の振り込め詐欺対策部署！

明菜

ついてないわね、真夏も。ぶはは！

真夏

笑いごとじゃないわよ！ 刑事の親だって知ってたら関わらなかったのに！

明菜

そうだよ、真夏にしてはミスチョイスだね。

真夏

ほんとついてない。

明菜

相変わらず、危険な橋は渡らないタイプだねえ、真夏は。

真夏

石橋は叩いても渡らない主義なの！

明菜

でも、（と言いながら真夏のカバンを漁り）収穫はあったんじゃない？

真夏

ちよっとやめて！ これは私が命削って得たものなの！ 明菜にはあげないんだから！ い

や、指一本触れさせないんだから！

明菜

真夏、怖い。

真夏

もう！

明菜

でもさ、真夏の話なら、そいつも結構鈍感だし、大丈夫じゃない！

真夏

でも警察だよ！

明菜

けど騙されたんでしょ？

真夏

まあ。

明菜

じゃ、大丈夫、大丈夫！

真夏

他人事だと思って適当だなあ！

明菜

真夏が捕まるか捕まらないか占ってあげようか？

真夏

占い？ 明菜が占いなんて――

明菜

（水晶をみるようにして）は！ 捕まる！（ふざけて）

真夏

明菜のバカ！

明菜

大丈夫よ、大丈夫。当たるも八卦当たらぬも八卦！ じゃあねー。

明菜が去る。

真夏

もう！・・・けど、明菜の言う通り、騙せたんだし。あの様子じゃ、多分一生気づかないはず。
（お金を見て）・・・てことは、私の勝利だー！

真夏はとても笑顔だ。

真夏

次はどうしようかな・・・。（立ち上がって）

風に乗って手紙が吹いてくる。

真夏は読んでみる。

真夏

手紙？（手紙を読む）「トメ子おばあちゃんへ。百歳の誕生日おめでとう！ 今度会いに行くね。 愛花。」

真夏は何かを決心してニンマリと笑う。
走り去る。

謎の刑事（カワカミ）がやってくる。

カワカミ

（電話をしている）ああ、めぼしはついてる。さっきこの宅へ入った。もうすぐ出てくるだろう。え？ 安心しろ。ヘマはしない。五百万、絶対取り戻す。出てきた。じゃ、切るぞ。（電話を切る）

真夏がやってくる。

真夏

どちら様ですか？（愛花になりきって）

カワカミ

俺はカワカミ。君は？

真夏

私は、中村愛花。

カワカミ

新内真夏。お前に逮捕状が出てる。

真夏

え？

カワカミ

とぼけても無駄だ。前から目を付けていたんだ。

真夏

何を言ってるのかさっぱり分かりません。誰ですか、その、新内真夏？って。

カワカミ

三百万、それと五百万は、どうするつもりだ。

真夏

カワカミ

だから、何のことだか分かりません！ 何ですか、三百万と五百万？
いつまでとぼける気だ。もう分かっているんだ。新内真夏。

警察官数名が真夏を囲う。

真夏

カワカミ

……わかったわよ、言う。私は新内真夏！
（警察官たちに）離れろ。手錠は俺がかける。

その時、下仁田がやってくる。

下仁田

・花音ちゃん？

（間）

真夏

今だ！

真夏が逃げようとする。カワカミが捕らえる。真夏はもがくが、やがて捕まる。

下仁田

（捕まる真夏を見て驚く）花音ちゃん！

真夏

・生活安全課。

カワカミ

お前は、下ネタ。

下仁田

下仁田だ！ アンタは確かカワサギ。

カワカミ

カワカミだ。

下仁田

そんなことどうでもいい。花音ちゃんに何をしてるんだ。

カワカミ

花音ちゃんだって？ ほく。(すべて理解)

下仁田

なんだ。

カワカミ

お前は騙されてる。コイツは振り込め詐欺師。新内真夏だ。

下仁田

・・・どうということだ？

真夏

(諦めて) ごめんなさい。私、花音じゃない。

下仁田

え？

真夏

知り合いでもないし、あなたとは、一切関係ない。

下仁田

それじゃあ。母さんからの三百万は。

真夏

・・・ごめんなさい。

カワカミ

詐欺師に騙されるなんて、警察の恥だな。

下仁田

・・・

カワカミ

(真夏に) さ、行くぞ。

カワカミに引っ張られ連れていかれる。

真夏の足が止まり・・・

真夏

(下仁田に) 下仁田さん！ ・ ・ 本当に、すみませんでした。 ・ ・ ごめんなさい。

真夏、カワカミが去る。

下仁田は真夏の後ろ姿を見て、「キュン」とする。

下仁田

何だ、この胸の高まりは！ まさか、恋？！

刑務所の牢屋の中。

真夏は一人。幻聴が聞こえる。

声

「犯罪者！」

声

「ペテン師！」

声

「悪魔！」

声

「最低だ！」

声

「お前なんか人間じゃない」

声

「死ねばいいのに。」

全員

「最低！」

真夏は一人泣いた。

五日後、下仁田が面会にやってくる。

下仁田

久しぶり。

真夏

・・はい。

下仁田

えっと、その。

真夏

（棒読み）お金は返せるか分かりません。すみません。

下仁田

いや、いいんだ。

真夏

（棒読み）もういいですか？

下仁田

え。

真夏

・すみません。

真夏、立ち去ろうとする。

下仁田

懲役は十年！ いや、もっとかもしれない。けど頑張れ。・応援してる。応援しちゃいけないけど・してる。

真夏

・。

下仁田

明日から他の部署へ行くことになったんだ。だから当分来れないかもしれない。

真夏

（呆れて）来なくていいで（ーいいです）

下仁田

キュンとして。

真夏

・え？

下仁田

キュンとして、胸が熱くなった時、ひとは恋をしたって云います。

真夏

どういことですか？

下仁田

だから、真夏さんに恋をしたって。

真夏が去る。

時間がさかのぼる。まるでデジャヴのように。

真夏

「でも、ごめんなさい。私は、あなたと話すことなんてありません。あなたのことは、好きになれません。・・・本当にごめんなさい。」

下仁田

「・・・」

真夏

「それじゃあ、もう。」

下仁田

「（話題を変える）あー、真夏さん。ハイビスカスワンダーって知ってますか？」

真夏

「・・・」

下仁田

「そりゃ綺麗な花で。夜になると青っぽく光るんです。」

真夏

「（立ち去ろうとする）」

下仁田

「（慌てて）ぜひ今度観に行きましょう。」

真夏

「・・・え？」

下仁田

「綺麗だから。絶対。」

真夏

「ごめんなさい。」

真夏が去ろうとする。その時、下仁田が声を掛ける。

下仁田

必ず迎えに行きます。それで、真夏さんをキュンとさせます！

真夏

（振り返る）

下仁田

ハイビスカスの花言葉は、「新しい恋」です！

下仁田が静かに立ち去る。

真夏が前に出る。

真夏

・ハイビスカスワンダー。

・新しい恋。（と呟いて、俯く）

反対側から下仁田がやってくる。
空を見上げている。

人々が歩いている。真夏が去る。

もうあれから十六年が経ったのだ。

七年後。

人々が何かを云い、去っていく。

刑務所から出てくる真夏。カワカミが手を押さえている。

全員

「七年後」

カワカミ

もう二度とこんなことするんじゃない。金で買えない幸せを探せ。いいな？

カワカミが去る。

街を歩く真夏。辺りを見回す。

真夏

七年って、やっぱり長い。(しんみり)

真夏が立ち止まる。

下仁田の家の前。

たまたま小枝子が帰ってくる。鉢合わせる。

小枝子

(真夏を見て) あなた・・・!

真夏

・・・おばあちゃん。

小枝子は真夏を抱きしめる。

小枝子

おいで。

下仁田の家。

真夏

下仁田さん。私、あなたを騙しました。・・本当にごめんなさい。

小枝子

（首を横に振り）謝りに来てくれただけで、私はすごく嬉しいよ。

真夏

・・。

小枝子

・・あの子の云う通りだった。

真夏

え？

小枝子

実はね、あの子から手紙を預かってるの。あなたに。

真夏

私に？

小枝子が手紙を渡す。

小枝子

はい。（と手紙を差し出す）

真夏が受け取り、読み始める。

下仁田が別の場所にやってくる

下仁田

「マナツさんへ。この手紙をあなたが読んでいるということは、戻ってきてくれたんですね。私は嬉しいです。この封筒には、一千万円入っています。マナツさんがやってしまったことは決して許されることじゃない。けど、マナツさんにはきれいな心が残っています。今、こうしてこの手紙を読んでいるように。また、会えることを祈っています。次こそは、悪いことをしていない素敵なマナツさんを見せて下さい。待っています。真一。」

下仁田が去る。

真夏

（読み終わり）．．でも、これ。

小枝子

彼女はまたここに来る、って。その時に渡してくれって。

真夏

でも、これは。

小枝子

大丈夫。それで、お金を返すんだ。たくさんの人に。

真夏

……。

小枝子

あなたを信じてる。

真夏

……私を。

小枝子

私ね。詐欺師って嫌いなの。

真夏

……。

小枝子

十二年前、あなたのようにまだ若い女の人に、お金をだまし取られたことがあってね。うちの

真夏

旦那さんは？

旦那、いい人だったからひよいひよいお金をつき込んで。それで結局。

小枝子

死んだのよ。借金取りに耐えきれなくなって。夜、私たちを置いて、家を出た。

真夏

……。

小枝子

その時、達也と真一が私に云ったの。「俺たちが刑事になる」って。刑事になって、振り込め詐欺を撲滅するって。結局、お兄ちゃんは結婚して刑事にはならなかったけど。

真夏

下仁田さんは、なったんですね。警察に。

小枝子

新内さん。私はあなたが許せません。でも、真一が決めたことなら全力で応援したいの。バカな親よね。

真夏

そんなことないです。けど、私は真一さんの気持ちに伝えられるかわかりません。まだ、好きになれないんです。

小枝子

なんだか安心した。

真夏

え？

小枝子

信じられなかったから。そのお金、持ち逃げするんじゃないかって。けど、大丈夫ね。それだけ自分に正直なら。さあ、行きなさい？

真夏

でもこれは、下仁田さんのお金で。

小枝子

そう思うなら、今度は真一に返してあげなさい。でも、今は世話になっていいんじゃないかい？あの子のためにも。

真夏

……。

小枝子

はじめは自分の手につけるものだよ。

真夏は静かに頷く。

小枝子

さあ、行っておいで。

真夏

ごめんなさい。

真夏が走り去る。トメ子おばあちゃんの家へ行くらしい。

小枝子

本当に、バカだよ。真一は。

下仁田がやってくる。

下仁田

あ、母さん！ 近くに来たから寄ったよ。

小枝子

あっあんな！ 今、真夏さんが来てたんだよ！

下仁田

え？！

小枝子

今出たばかりだよ！ 早く追いかけるんだ！

下仁田

分かった！ （走り去ろうとするが振り返る）え、でも仕事が。

小枝子

「仕事と真夏さん どっちが大切なんだい！！！！」

下仁田

（はっ！として）真夏さん！ （下仁田が走り出す）

真夏は走る。多くの人を掻き分けながら――

トメ子おばあちゃんの家。

トメ子おばあちゃんではない女の人の声が聞こえる。

女声

「ふざけないで！ あなた、よくここに顔を出せたわね。 帰りなさいよ！ 顔も見たくないわ！」

下仁田が飛び出す。

声に気づきその方向へ飛び出す。

女声

「ちよっと、何よ、あなた！」

下仁田（声）

すみませんでした！

下仁田、真夏が歩いてくる。

下仁田

随分暗くなっちゃいましたね。

真夏

はい。．．下仁田さん。

下仁田

ん？

真夏

ありがとうございます。

下仁田

大丈夫。（ときこちなく笑う）

真夏

．．。

下仁田

真夏さん。おかえりなさい。

真夏

（下仁田をまっすぐに見つめる）

下仁田

（細かく頷く）

真夏

下仁田さん．．私。

その時、トラックがクラクションを鳴らす。

運ちゃん

道の真ん中で、イチャイチャするな！

二人

すみません！

慌てて退く。

すると、目の前に・・・。

下仁田

あ！ 真夏さん！（と指を指す）

真夏

（気がつく）・・・ハイビスカス・ワンダー！

少し沈黙する。

すると突然、真夏が下仁田を抱きしめる。

下仁田

ふえ？！

真夏

・・・下仁田さん。

下仁田

・・・

今、キュンってしました。これって、恋ですか？
た、多分。

真夏

（微笑んで）じゃあ、恋に落ちたってことですね。下仁田さんで。

下仁田

（二度見をかまして）

真夏

好きです。大好きになりました。

下仁田

・・・やった！（満面の笑みで）

〈幕〉